

草香山の歌一首

一四二八番

おしてる 難波を過ぎて うちなびく 草香の山  
を 夕暮に 我が越え来れば 山も狭に 咲ける  
あしびの 悪しからぬ 君をいつしか 行きては  
や見む

桜花の歌一首 并せて短歌

一四二九番

娘子らが かざしのために みやびをの 縵の  
ためと 敷きませる 国のはたてに 咲きにける  
桜の花の にほひはもあなに

反歌

一四三〇番

去年の春 逢へりし君に 恋ひにてし 桜の花  
は 迎へ来らしも